

【事業報告書】

HKFA審判委員会 女子部

“コンサドーレ・エスポラーダカップ”全道市町村サッカー・フットサル大会



5R

～一步一步着実に～

- 日にち 2024年2月3日（土）・4日（日）
- 場 所 札幌ドーム
- 内 容 運営スタッフ（審判員）
- 参加者 長浜 杏名・平木 柚香・土屋 花・秋山 心音（2級審判員）
高橋 柚葉（3級審判員）
空知地区ユース3級審判員1名

■ 参加者のコメント

長浜 杏名

今回は女子審判員総勢6名での参加となりました。初めて顔を合わせた仲間もいてまた一歩仲間の輪が広がったことを実感できました。2日間でU-6、U-8、U-15、一般、少年団母の部を担当しましたが、**様々なカテゴリーの試合を担当できることがこのフェスティバルの醍醐味**であり良い経験の場となりました。大会終了後、疲労はあったと思いますが楽しかったと充実した表情で帰っていく仲間を見てこの大会に稼働できてよかったと感じました。



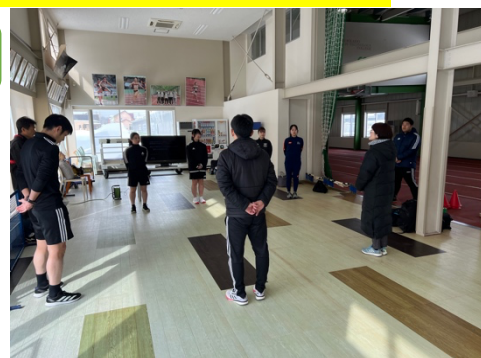
高橋 柚葉

今回初めて参加させて頂きました。大会役員の皆様には円滑な進行を心より感謝申し上げます。**全道各地より様々な年代の選手たちが一つの会場に集まり、サッカーやフットサルの楽しさを共有できたこと、とても充実した2日間だったと感じました。**また、新たな審判員との出会いや再会があり、**今年も皆さんと審判活動を頑張りたいと思いました。**試合では、特に子どもたちから癒しを頂いたので来年も是非参加させて頂きたいです。

フィットネス研修会②

- 日にち 2024年3月2日（土）10:30～13:00
- 講 師 矢倉 幸久氏（HKFA医学委員）
- スタッフ 蝦名 隆幸（2級審判インストラクター・女子部）
- 参加者 平木 柚香・土屋 花・秋山 心音（2級審判員）
空知地区ユース3級審判員1名
- オrganizer 大岩真由美氏（HKFA副会長）
藤井 陽一氏（HKFA審判委員会委員長）
川合 信氏（空知地区FA審判委員会委員長）
佐藤 修也氏（空知地区FA審判委員会副委員長）
高須賀哲平氏・細谷 励氏・田口 平蔵氏（2級審判員）

本日の流れを確認



これから走ります！

■ 日程

10:30	審判員集合	今回は2級の基準を体験しました
11:15	Speed Test 40m 6.9 秒以内×6本	
11:25	Interval Test 75m run 20秒・25m walk 25秒 ×32本	
12:15	講義「選手の安全のために」	
12:55	振り返り	
13:00	解散	





テストの概要について説明



心肺蘇生を体験



講義は研修会としては初めての内容。審判員としても大切な知識を教えてくださいました。

■ 参加者のコメント

平木 柚香

今回フィットネス研修会を通して、自分のフィジカルでどこが不足しているのか明確に分かり、また、矢倉先生からの体の使い方を学び、改善点が分かったと思います。選手の安全を守るための講習会では、**脳震盪や心臓振盪といった命を脅かすこと、選手生命を脅かす状態を迅速に防ぐための自分が行う行動について学び**、今後の審判でもし起こった時には落ち着いた行動ができるようにイメージしていこうと思いました。

空知地区ユース3級審判員

研修会に参加して思ったことは、**自分の現状をよく知ることができた**ことです。もっと持続的に走れるよう体力をつけることと、走り方や姿勢が良くないことも含めて6.9秒以内に走ることができなかったのも、教えていただいたことを意識して6.9秒以内に走れるようにしたいです。また、矢倉さんの講習では**頻度は少ないが命に関わる事象やその対処法などを聞くことができました**。もしものときに役立てられるように覚えておきたいと思います。

■ 講師 矢倉幸久氏より

今回、大岩真由美副会長からのご紹介で、フィットネス研修会での帯同とお話をする機会をいただきました。フィットネステストは、けが人が出ることもなく無事終了し安心いたしました。講話では、2024Jリーグレフェリングスタンダードでも、今シーズンのトピックスの1番目に挙げられている、『**競技者の安全を守る**』という観点から、テーマを『**選手の安全のために**』とし、以下の2つについてお話いたしました。

1つ目は、『**頻度はごく稀で、おそらく審判として出会うことはないと思われるが、知らないと助かる人が助からないもの**』と題して心臓突然死と心肺蘇生について、サッカーでの試合中突然死の実例を紹介しながら、**なぜ心臓突然死が起こるのか**、背景に心疾患がある場合と、全く健康な心臓であっても心停止（心室細動）をきたす**心臓震とう**について説明し、心肺蘇生法についてもお話した後でマネキンを用いた胸骨圧迫とAEDの使い方について体験していただきました。

2つ目は、『**意外と頻度は多いが、まだまだ軽視される傾向があり、舐めてかかると重大な事態が起こる可能性のあるもの**』と題し、脳震盪についてお話いたしました。サッカーの試合中でも、血が見えると重症感があり、主審はすぐに試合を止めて対応します。選手が頭同士を激しくぶつけて倒れた場合には対応は早いですが、**頭をぶつけていない場合に対応が遅れることがあります**。脳震盪は頭をぶつけていなくても、**激しく頭が振られると起こりうる**ことを強調し、サッカーの試合中の脳震盪の映像、私（S2）が主審として経験した脳震盪の実例体験談をお話いたしました。

試合中に選手にアクシデントが起これば、一番近くにいるのは他の選手と審判です。試合を止めてもメディカルスタッフが到着するまでの1分間で救命率は7～10%低下すると言われています。頭部外傷も時間が勝負となる場合があります。**試合を止める必要性を正しく認識でき、試合を止めたら躊躇せずに一番早く選手を救う対処のできる審判が増えることを望んでいます**。

■ 蝦名隆幸女子部長より

今回の研修会は、サッカー2級審判員のフィットネステスト基準のスピードテスト・インターバル走テストを実施しました。女子審判員4名、男子審判員3名の計7名が参加し、各自のフィジカル面のコンディションを確認することができました。また、**今後実際に試合に臨む時に、よいパフォーマンスを発揮できるように分析してほしい**と思います。

さてこの度は、HKFA医学委員/JFAアンチ・ドーピング部会員である矢倉 幸久 様にも講師として来ていただき、『**選手の安全のために**』のテーマのもとご講話をいただきました。心臓の痙攣や停止、脳震盪などサッカー現場で起こり得るお話のみならず、心マッサージ、AEDの使用の実習までしていただきました。**審判員として、選手の安全を守るために実行すべき事項や、自分自身の体調管理の方法**など、とても重要なご講義であり、ぜひ**全審判員にも矢倉様のお話を聞いていただきたい**と切に感じました。

当日は、HKFA副会長 大岩真由美様、HKFA審判委員長 藤井陽一様、空知FA審判委員長 川合信様、空知FA審判委員会 佐藤修也様にも参加していただき、とても有意義な研修会となりました。ご協力いただきました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

大岩真由美さん INS引退 ありがとうございました！



大岩さんは、公益財団法人日本サッカー協会の理事に就任されることになりました！



3/2のフィットネス研修会の最後に感謝の気持ちを込めて花束贈呈をしました。



講義や実技指導など、様々な機会でご指導いただきました。特に「審判員として」審判だけではなく、人としてのあり方についてたくさん教えていただきました。

■ 大岩真由美氏より

2023年シーズンを以て、15年間のインストラクター活動を卒業させて頂きました。これまで関わりのありました皆さまには、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

沢山のの人に恵まれ、沢山のチャンスにも恵まれ、北海道室蘭市で審判と出逢い、そこから審判の道で様々なチャレンジをさせて頂きました。当時周りに同じ女性審判がいない状況でしたが、今では女子1級も5名誕生、国際審判として女子W杯に参加した主審と副審が居ること、そして今度は国際審判や1級を目指そうと頑張っている仲間が出てきたり、地域にて審判やインストラクター活動をしてきている女性も増えてきました。その顔ぶれを見ていると、みんな一生懸命にそれぞれが自分なりにチャレンジし、頼もしくもあり、嬉しい気持ちでいっぱいです。

今回、インストラクターは一区切りいたしますが、サッカーへの恩返しは続けて参ります。これからもサッカーファミリーの一人としてどうぞよろしくお願いいたします！

■ 蝦名隆幸女子部長より

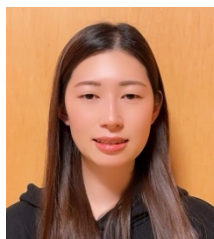
大岩さん、長きにわたり、審判インストラクターに係る活動、本当にお疲れさまでした。日本のみならずアジア・世界で活躍された功績は、計り知れません。私たちに指標を示していただき、本当にありがとうございました。

物腰が柔らかいながらも、一言一言に重みがあり、深く浸透するご指導は、忘れることができません。地元北海道の審判ファミリーは、大岩さんのことをずっと誇りに思っております。お疲れのこととは存じますが、お身体に無理のない程度で、今後ともご指導いただければ幸いです。引き続き、変わらぬご指導・ご鞭撻のほど是非ともよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました！

長浜杏名さん、サッカー2級審判インストラクター合格！

■ 長浜杏名氏のコメント



この度2級審判インストラクターの認定を頂きました。
受験にあたり多くの皆様にサポートを頂いたことにまずは感謝の気持ちを伝えたいと思います。試合分析もプレゼンテーションも経験の乏しさを痛感することとなりましたが、**今後のやるべきことが明確**にもなりました。自分の伝えたいことを伝えること、気付いてもらうための導き方、また次に向けて頑張ろうと前向きな気持ちを持ってもらうための言葉がけなど難しいと感じることはたくさんありますが、**インストラクターとして審判員の魅力を知ってもらい一緒に活動できる仲間を増やせるような活動**をしていきたいです。

全国研修報告

- 大会名 : U-20審判員春季研修会 (TRAUM CHALLENGE FESTA GUP in SPRING)
- 場所 : 茨城県 鹿島ハイツスポーツプラザ
- 日にち : 2024年3月4日(月)~7日(木)
- 参加者 : 土屋 花(2級審判員)
- 研修内容 : 研修テーマ「走力」

02/15

ZOOMによる事前研修会 講師：名木利幸氏

03/3

大会要項の確認

FK, CK, ロングスロー, PKのマネジメントについてのディスカッション

03/4

プレス, カウンターについて

ポジショニングについてのディスカッション(争点の見える位置に入るための近づき方・審判員との協力)
スタッフとしての仕事の確認

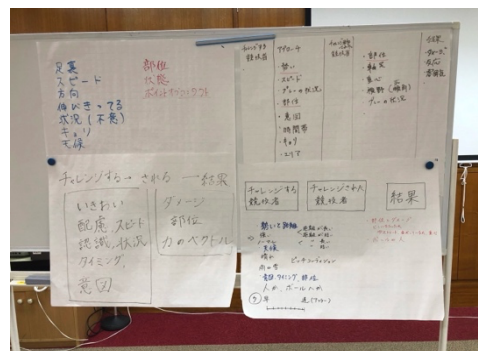
03/5

審判報告書(重要報告)について

著しく不正なプレーについて

03/6

コートを利用したトレーニングの方法について



3/4 東京経済大学 — 東京国際大学

後半45分 主審

アセッサー：羽矢吉克氏

【振り返り】

試合全体的に、ボールからの位置が遠く、争点から距離が離れている時間帯が多く見受けられた。ボール保持者の目線や、前線の選手の動き出しを感じ取りながらポジショニングを考えるとタイミングがとりやすいとアドバイスもらった。また、ファウルの判定について自分の基準を試合を通して選手に伝えるためには時に強さを用いることが必要であった。笛の音や、スプリントの強弱をうまく用いることで一緒に試合を作るチームとしての意識を感じ取ってもらえるのではないかと全体の振り返りで議論した。後半10分頃ゴール前のFKの際、壁についてマネージメントを行っており、ゴール前の攻防に意識が向いておらず、選手同士の接触に対して対応ができなかった。この時に真っ先に選手が集結している場所に向かってしまったが、一番最初にA1に状況を聞いておくべきであった。

3/5 東海大学熊本 — 早稲田大学

副審

アセッサー：柳元良文氏

【振り返り】

90分の試合で全体的にラインはキープできていた。しかし、後半にかけてロングボールの対応が少し遅くなっていた時間帯があり、シグナルが遅くなっていた。また、主審との連携の場面ではアシスタントサイドのジャッジに関しては、積極的に示すことによって互いに協力できるのではないかとというアドバイスをいただいた。今回は4thがいなかったため、交代のタイミングなどは、アシスタントと目を合わせて試合を進めるように心がけていくとよりスムーズに試合が進んでいた。後半、A1サイドでSPAの事象が起こった際に、ファウルサポートができていなかった。常にラインキープを行っただけで主審のサポートとして、事象が起こりそうな場所では空気感などを感じ取っておくべきであった。

アセッサー：高橋武良氏

【振り返り】

前日の反省を生かし、打ち合わせの段階でA1サイドでのファウルの事象について話し合いができた。串刺し状態になった際にアシスタントができることを自分で考え、ファウルサポートを行うことができた。課題としては、攻守の切り替えの際に、ただひたすらにラインのことを考えていたが、それでは試合の情報が全く分からないためついていけない場面があった。サイドから得られる情報を取得するためには、全体を見ていかなければいけないと感じた。またINSの方からは、サッカーの終点であるゴールよりボール保持者とゴールの間に何があるのかを感じることで、選択肢を複数考えることができるとのアドバイスをいただいた。

アセッサー：名木利幸氏

【振り返り】

試合全体を通して、選手に対するマネジメントを特に意識した。例えば、声掛けでは今までの試合で様々な審判員の方々がやっているものを参考にし、どう伝えればより分かりやすくなるのかを意識して試合に臨むことができた。前半の時点で、スローインの際の立ち位置について指摘を受けたため、アウトオブプレーになった時点でフィールド内にいる選手の位置関係を確認し、攻守の選手の間を認識できる立ち位置に移動するよう意識した。また、ゴールキックの際、サイドまで行っていたがそうすると展開の時に、ボールから離される場面が何度もあった。そのため、後半からはセンターサークルからサイドのボールを確認する方法に変えたためボールから離されることがなくしっかりとついていくことができていた。大きな事象としては、後半23分、得点のシーンでA1からフラッグアップの動作があり瞬時に確認しに行けたことによって審判団としての試合の進行をスムーズに行うことができたのはよかったと感じた。しかし、ファウルの判定で後半9分、アドバンテージを採用したことはよかったがその後のシーンで警告の考えをもっと持つべきであった。その後の選手の行動から考えてフラストレーションを感じている様子だったため、そのシーンでのマネジメントをしっかりとしなければいけなかったと考える。

研修を通して

初めに、このような貴重な研修会に審判員として参加させていただけたことに感謝申し上げます。全国各地から参加された自分と同世代の審判員の方々に多くの刺激をもらうことができた研修会でした。その中で、今回一番のテーマとしていたのが「走力」です。今大会に参加されるチームに関して、男子の一種のカテゴリーということで**自身の力がどれくらい通用するのか**ということを考えました。実際、今回担当した4試合では、副審を担当した試合だと**ラインのキープに関して動き出すタイミングや、準備をより意識することによってしっかりと90分離れることが少なくなったことは今回大きな収穫**であったと感じました。しかし、主審を担当した試合では特にカウンターの場面で大きく離されていたため今後の課題として**試合中でのポジショニングに修正を意識していく必要がある**と考えます。また判定に関しては主審としてだけではなく審判団全員の判定ということを常に考え、副審との連携や協力を促すような打ち合わせが大事であるということに気付くことができました。

この5日間の研修会で多くの審判の方々と交流することができました。**自分と同年代の審判員の方々の姿を見ることができ、多くの知識や情報を得ることで自身のこれからの審判活動に大きな影響をもたらしていく**と思います。

最後になりますが、今回このような研修会に推薦していただいた北海道サッカー協会・空知地区の皆様、ご指導いただいたインストラクターの皆様、そして今大会を運営していただいたSPORTS MANAGEMENTの皆様に感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

